想学聞だより No.28

練馬区学校歯科医会広報

http://www.nerigakushi.tokyo

2023年3月発行



目 次

p.1	•••••	ご挨拶	練馬区学校歯科医会	会長	草柳	英二
p.2	•••••	学校歯科健康診断	についての養護教論対 練馬区学校歯科			
p.3	••••	練馬区学校歯科医 コロナ禍における安	会 会員研修会 そ心・安全なフッ化物対応 東京歯科大学名誉 学術委	教授	眞木 生田	吉信 剛史
p.5	•••••	第 86 回関東甲信起			池田 蓮池 小池	瀬宣 敏明 泉
p.8	•••••		· 由保健研究大会(山梨		西村 郷家	滋美 英二
p.10	•••••	令和 4 年度全国学	校保健•安全研究大会	(盛岡)	草柳石井	英二 伸行
p.12	••••	第 41 回練馬区学校	交保健大会	名	古谷	昌宏
p.13	••••	第 35 回練馬区よし	・歯・良い子の集い		金澤	正彦
p.14	•••••	「練馬区学校歯科図	医会65年記録誌」発刊	J^	佐藤 草柳	和典 英二
p.15	•••••	歯と口の健康推進	事業における小・中学権	交への値	歯ブラシ 西	/贈呈 克昌
p.16	•••••	学校紹介	光が丘第一中 光が丘第二中 光が丘第三中	学校	吉積 佐藤 槙木し	宏祐 和典 のぶ
p.19	•••••	新入会員の声	都立練馬高等 大泉東小		鶴岡西村	岳史 亮

会長挨拶

練馬区学校歯科医会会長 草柳 英二

会員の方々には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は学校歯科衛生活動に格別のご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

今期コロナ禍の状況下に、教育委員会および練馬区歯科医師会と各学校関係者のご尽力により学校歯科保健活動は、すべて順調に実施されております。あらためて御礼申し上げます。「COVID-19」この単語は、世界史及び日本史の一項目として永遠に刻み込まれることでしょう。令和元年暮れに中国・武漢で発生した「新型コロナウイルス感染症」は、世界中を渦に巻き込み瞬く間に大多数の感染者数及び多くの死者を出し、脅威のウイルス感染症となりました。

日本全国の学校歯科医会も大きな影響を受け対応に追われ、大混乱を招きました。令和3年頃にはようやく感染対策も浸透し、徐々に安定した学校歯科保健活動も遂行されて来ました。しかしながら、新生活様式による幾多の弊害も表面化しております。令和4年末現在、オミクロン株感染の第8波が拡大しております。残念ながら終息の道は、まだまだ見えないようです。

練馬区学校歯科医会は、昭和30年に練馬区歯科医師会から独立し、第一回目の練馬区学校歯科医会総会を開催し、正式に発足致しました。「むし歯半減運動五カ年計画」が設立され、多くの学校歯科保健活動の事業が遂行されました。練馬区学校歯科医会は、児童生徒の健康づくり事業に発展と充実に尽力を注ぎ、令和2年までの65年間の変遷を「練馬区学校歯科医会65年記録誌」として編纂する事が出来ました。「学校歯科医会の始まり」「練馬区学校歯科医会の歩み・65年の略史」「各種歯科保健研究大会」「学術研究資料」「練学歯だより掲載項目」「練馬区学校歯科医会歴代役員・会員名簿・会則」等を掲載し、この記録は先輩諸氏の熱意と努力の足跡であり、今後も私たちは、練馬区学校歯科会の伝統を継承してゆきたいと祈念いたしております。

是非とも「練馬区学校歯科医会65年記録誌」をお読みいただき「歴史」を感じ取りいただければ幸いです。今後も、練馬区学校歯科医会は、練馬区歯科医師会および練馬区歯科医師連盟と共に練馬区児童生徒のために歯科保健活動の健康維持充実のために邁進してゆきたいと思います。

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大における 学校歯科健康診断についての養護教諭対象アンケート調査

練馬学校歯科医会 学術委員会

はじめに

令和2年1月頃より発生した新型コロナウイルス感染症'(COVID-19) は、教育現場に脅威を与え、日常の生活環境の改変をもたらした。日常生活下での感染防止対策の徹底が、必要とされた。歯科健康診断の時期の変更や口腔衛生指導講演等の事業活動を中止せざるをえない状況化に陥った。練馬区学校歯科医会は、令和3年度に実施した練馬区学校歯科医会会員の学校歯科医に対するアンケート調査の結果は、教育現場の状況を把握し、学校側との連携を強化する事により、虐待やネグレクトの早期発見や、児童生徒の健康管理の対策を構築していくこととなった。

その結果、新型コロナウイルス感染症対策のもとに令和4年度は、区内のほとんどの学校が6月末までに例年通り歯科健康診断が実施された。現時点においても新型コロナウイルス感染症禍(以下コロナ禍と略す)では、学校歯科健康診断や学校生活にどのような影響を与えているかを検証するため、養護教諭に依頼しアンケート調査を実施した。

「方法」

本アンケート調査は、練馬区学校歯科医会会員が担当歯科医である幼稚園3園、小学校37校、中学校21校、高等学校2校、特別支援学校3校の養護教諭を対象に無記名で、以下の内容で令和3年7月に実施した。回収率は、58.7%(114校中67校)であった。

一アンケート内容—

- 1)コロナ禍において、歯科健康診断に際し、児童・生徒に変化はあったかどうか
- 2)歯科健康診断時、例年と比較し「苦労したこと」や「工夫したことに」ついて
- 3)コロナ禍以前との歯科健康診断結果の変化について(むし歯・歯肉炎・歯垢の付着等)
- 4)歯科健康診断で要受診者(治療勧告用紙配布)の割合の変化について
- 5)歯科健康診断後の歯科受診率(治療勧告用紙の提出率)の変化について
- 6)歯科健康診断への協力状態が困難な児童・生徒への対応で工夫していることについて
- 7) 口腔ケアを自分で行えない児童・生徒への対応について工夫していることについて
- 8)給食後の歯みがきの実施状況につい
- 9) 黙食を推奨している給食時においての、児童・生徒の喫食状況について
- 10)マスク装着が困難な児童生徒への対応について
- 11)コロナ禍以前と比較して児童・生徒からの口腔についての相談について
- 12)保護者からの児童・生徒の口腔に関しての相談について
- 13)令和2、3年度の学校保健委員会の開催状況について
- 14)歯科健康診断時における学校歯科医への要望
- 15) 虐待やネグレクトが疑われる事例について

今回は、経過報告として

新型コロナウィルス感染症は、児童・生徒の生活環境に非常に大きな影響を及ぼし、現在もなお、教育現場は様々な対応に追われている。今回のアンケート調査結果は、教育指導の立場から貴重な意見を礎に、練馬区学校歯科医会会員ならびに学校教育指導の立場から現場に対し、コロナ禍における児童・生徒の健康維持管理の指針として報告ができるように、学術委員会でアンケート調査の集計し総括している段階である事を報告する。

練馬区学校歯科医会会員研修会

演題:コロナ禍における安心•安全なフッ化物の応用

東京歯科大学名誉教授 眞木 吉信先生

新型コロナウイルス(COVID-19)感染の蔓延が継続している中で、歯科診療所への通院のみならず、学校や施設における集団を対象としたフッ化物洗口や歯みがきなどの口腔健康管理の中止、中断といった停滞状況が各都道府県で顕著にみられることは周知の事実です。

この背景には、ブラッシングや洗口などによるコロナウイルスの飛沫感染の問題があるといわれています。実際、小中学校の中には、コロナウイルスの感染予防として、「顔洗いと手洗いは必須」で、「うがいや歯みがきは禁止」とし、「給食は無言で14分で終了、15分以上はダメ」とすることが報道されています。

しかしながら、このような集団管理に対して、日本感染症学会の指導医からは「水 しぶきによる感染はほとんどない。コロナ感染予防のためには、顔洗いより口腔の乾 燥状態を防ぐために、うがいを優先すべき」という声も上がっています。

このような状況を改善するために、今回は、コロナ禍でもあまり頑張らずに、安全安心なフッ化物応用を実施することによって、個人および集団のう蝕予防をはじめとした口腔の健康管理法を提案したいと思います。

日時:令和4年11月24日(木)

場所:ZOOMおよび会館



東京歯科大学名誉教授 眞木吉信先生



講演中のスライド

練馬区学校歯科医会会員研修会

眞木吉信先生「コロナ禍における安心・安全なフッ化物の応用」を視聴して

学術委員会委員長 生田 剛史

令和4年11月24日(木)19:00より本年度の練馬区学校歯科医会会員研修 会がオンライン配信にて開催されました。

演題は東京歯科大学名誉教授、眞木吉信先生による「コロナ禍における安心・安全なフッ化物の応用」でした。内容は前半、ペストやスペイン風邪などの人類の感染の歴史から始まり感染症のパンデミックには必ず誹謗中傷や差別が起こると言われていたのがとても印象的でした。現在のコロナ禍において日本国内でも特に発生当時、感染者への差別があったと記憶しております。正しい情報が国民に伝わらないことで感染の恐怖を煽り差別につながるのだと思います。歯科健診や学校での歯みがきはどうでしょうか?やはりコロナ禍では感染のリスクを恐れ定期健診を中断される方も多く、学校での歯みがきも中止しているところがほとんどのようです。しかしながら「口腔ケアが感染リスクを高める」というのは正しい情報なのでしょうか?眞木先生は講演の中でそれは全く逆で「口腔ケアは感染リスクを低くする」ということを訴えておられました。「手をよく洗えというのになぜ口の中を洗わないのか!」おっしゃるとおりです。

後半はフッ素塗布やフッ化物洗口について種類や術式についてわかり易く説明 していただきました。

講演を聞いてフッ素濃度や術式、さらには年齢や症例による使用薬剤選択の大切 さを再確認いたしました。普段自分の診療所ではただ漠然とフッ素塗布しているレベルでしたのでこの研修会を期にもう一度勉強しなければならないと痛感いたしました。

研修会は練学歯の共有ドライブからいつでも見ることができます。とてもすばら しい内容ですのでまだ見ていない方、もう一度見たい方、是非アクセスしてみてく ださい。

第73回関東甲信越静学校保健大会参加報告(横浜)

関町中学校担当歯科医 池田 頼宣

大会はZoomミーティング形式によって開催されました。主題は「新しい生活様式を経験して考える不易流行の健康教育」でした。

大会の期日は令和4年8月4日(木)にライブ配信、8月12日(金)から8月31日(水)はオンデマンド配信されました。特別講演は管理栄養士、塚本万智氏が演題「心と体を育む食育」~今、そして10年先の健康のために~と題して食育の重要性とその推進等について話されました。

続いて班別研究協議会として5つの班に分かれ、

- 第1班「学校経営と学校保健」教育目標具現化を目指す学校保健。
- 第2班「健康教育」生きる力をはぐくむための健康教育及び自分の健康や行動 に責任をもつ薬物乱用防止教育。
- 第3班「いのちの教育」相手を思いやり望ましい人間関係を構築する性に関する 指導及びいのちの大切さについて考えるがん教育。
- 第4班「学校歯科保健」生活習慣病の予防等を目指した歯・口の健康づくり。
- 第5班「学校環境衛生と安全教育」快適な学校環境づくりと実践力を高めるため の安全教育でした。

私たち学校歯科医出席者は第4班に出席し、158名でした。

提案者としてまず、千葉県立特別支援学校養護教諭、須田浩美氏が「健康的な生活と社会自立を目指して」と題して、学園での取り組みを述べられました。

次の提案者として甲府市立善誘館小学校養護教諭、竹内かおり氏が「家庭及び地域社会との連携による学校歯科保健活動の在り方」―主体的に歯と口の健康づくりに取り組む児童を目指して―と題して小学校での活動を述べられました。 各提案者の発言の後に質疑応答があり、最後に助言者である神奈川県歯科医師会 公衆衛生斉藤牧氏からは須田氏に対し、神奈川県内の同様校でのデータよりアドバイスを述べられました。

また次の助言者である横浜市教育委員会、仁平浩史氏より竹内氏の提案についてアドバイスを述べられました。Zoomミーティングでのライブ配信とその会議方法、さらにオンデマンド配信と、おそらく新しい会議様式として行われた大会であったと思いますが、大変素晴らしい内容だったと多くの出席者が感じられる大会だったと思います。

第73回関東甲信越静学校保健大会参加報告(横浜)

富士見台小学校担当歯科医 蓮池 敏明

令和4年8月4日木曜日に、公益財団法人日本学校保険会の主催により、ブロック別大会である第73回関東甲信越静学校保健研究大会が開催されました。開催地は横浜市ですが、一昨年より続く新型コロナ感染症の流行のためオンライン開催となり、私も自宅に於いて参加いたしました。参加申し込みを行うと大会ホームページアドレスと個別パスワードがメールで送られ、更に別便で共通パスワードがメールで届きます。都合2つのメールを持って、初めて大会内容が明らかになります。セキュリティにとても気を使っていることが分かりました。

当日は13時から開会式が、続いて13時15分から特別講演(「心と体を育む食育」 ~今、そして10年先の健康のために~ 株式会社 ABC Cooking Studio 塚本 万智 管理栄養士)があり、これは Zoom Webinars で配信されました。

休憩に続いて、14時30分からは班別研究協議会が行われ、私は4群「学校歯科保健」に参加しました。

班別研究協議会4:「学校歯科保健」の議題は、生活習慣病の予防等を目指した歯・口の健康づくりであり、協議内容1.は、「歯と口の健康づくりの日常化を目指す学校歯科保健指導の在り方」について、提案者として千葉県特別支援学校流山高等学園養護教諭須田浩美先生による発表が、また協議内容2.は、「過程及び地域社会との連携による歯科保健活動の在り方」について、提案者として山梨県甲府市立善誘館小学校養護教諭竹内かおり先生の発表がありました。質疑応答等もあり、予定時間を超えての活発な研究協議会でした。内容につきましては、特別支援学級や擁護学校の特殊性を鑑みた取り組みが興味深かったです。

この協議会は、開会式とは異なるZoom Meetings を利用したため、マイクを切らない(操作方法に不案内な)参加者が数名存在し、雑音が入りました。また自己端末の画像を切らない参加者も多くみられました。

講演内容は、HP上で8月31日まで公開されるとアナウンスされています。オンデマンド配信期間は8月12日(金)から31日(水)とのことです。講演内容は私以上に皆さまがご存知のことと存じますので、体験しました新しい研修会の形をお知らせいたします。次回開催県は埼玉県の予定です。

以上、雑駁ですが第73回関東甲信越静学校保健研究大会に参加した報告といたします。

第73回関東甲信越静学校保健大会に参加して

都立大泉高附属中学担当歯科医 小池 泉

去る8月4日に開催された学校保健研究大会に初めて参加致しました。

今回の特別講演のテーマは「食育」で管理栄養士の塚本万智先生による講演でした。

「食育」という言葉が何時ごろから一般的に使われる様になったのか定かではありませんが私が学生の頃は授業内容として「食育」と言う言葉は無かったと記憶しております。

そのため都立中学の学校歯科医になった頃から歯科医師会から配布されるガイドブックを 読んだり、個人で参考になりそうな本を購入たりと独学してきたのですが、改めて管理栄養士の先生が一つのテーマとして短時間で分かりやすい説明を聞く事ができて大変嬉しく思いました。

今まで歯医者としての立場から「食育」を考えていたのでつい口の開け方・噛み方・飲み込み方を重点的に考えそこから歯並び・嚙み合わせ・唾液の分泌と口腔機能へ結び付けていたのですが、「食育」とはそれだけで無く「共食力」として食事の前後の挨拶や箸の持ち方食事をする時の環境「選食力」として献立の考え方なども含まれると説明され、なるほどと思いました。

また、「食育」のピクトグラムが 12 種類あり、小学校や外食産業で試験的な利用が始まっていたり、「新しい生活・不易健康・流行教育」という言葉が出てきたり講演終了後に調べなきゃとメモを取る事が多々あり臨床にだけで無く日々学んで行かなければとつくづく感じました。

今回新型コロナの流行で今までと違う生活を強いられる日々の中で唯一良かったと思える事がネット関係の充実により zoom 会議が一般的になり遠方での講演や会議に参加しやすくなった事だと思います。

私も遅ればせながら今年に入ってから幾つかの講演や会議に参加させてもらっていますが、これからはもっと意欲的に参加していきたいと思います。

第86回全国学校歯科保健研究大会に参加して

学術委員·ICT担当理事 西村 滋美

10月20日(木)、山梨県甲府市で第86回全国学校歯科保健研究大会が開催されました。

今年度は、会場とオンラインのハイブリッドで開催されました。練学歯学術委員会のポスター発表がございましたので、思い切って特急あずさ号に乗り、久しぶりに現地参加しました。

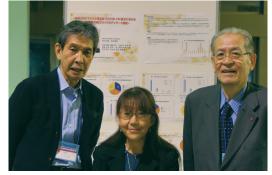
朝からお天気も良く、富士山もよく見えて、気持ちの良い日になりました。会場には思ったより多くの方が参加されていました。しばらくリアル開催の学会がなかったため、久しぶりに多くの先生方と直に会話ができ、また発表ポスターについてもご質問いただき、さらに学会終了後の意見交換会もあり、とても新鮮な気分になりました。

来年は10月19日(木)大阪国際交流センターにて開催されます。コロナウィルスの感染状況が来年は落ち着いていて、マスクの装着も緩やかになり、安心して参加できますことを願うばかりです。



会場風景





草柳英二会員 西村滋美会員 中田郁平会員



練学歯 西村滋美理事 都学歯 山室直子専務理事



第86回全国学校歯科保健研究大会にオンライン参加して

大泉西中学校学校歯科医 郷家 英二

この度第86回全国学校歯科保健研究大会にオンラインで参加しました。コロナ禍で現地参加とオンライン参加のハイブリッド形式での開催が通常となり、オンラインは時間的束縛がなく地方大会開催でも参加しやすくなりました。

本大会特別講演の「マリ共和国農村部における人々の健康づくりについて」村上一枝先生のご講演を拝聴し、先生のマリでの健康づくりが識字教育から始まり学校の建設、地域の人々の生活環境の改善への取り組みや女性の地位向上のための収入の確保、産院や診療所の開設、健康教育などに大変なご努力と奮闘ぶりに感銘しました。与えるだけではなく自分たちで問題解決ができるよう指導された活動は、あらためて「健康づくり」には人を育てることが大切であるということをお教え頂きました。

シンポジウムの安井利一先生の基調講演では、人間は健康と病気の境界領域を移動しているので、児童生徒をマイナスな領域に移動させないために事後措置において学校歯科医の専門性が重要であるという内容が印象的でした。また講演の中で日学歯学術委員会の研究報告があり、全国の健診結果から歯垢の付着と歯肉の状況やう蝕経験、歯列咬合との関係を統計学的データで示され、「健康づくり」は最終的に自律性の問題であり、そのためには児童生徒を導くための事後措置が大切であるということを再認識しました。

足立区立第十中学校養護教諭の平澤規子先生のご講演では、足立区はむし歯のある子どもの割合が23区の平均を上回っており未処置歯の割合も高い現状から、地域ごとのブロック活動において個々の生徒に対する様々な取り組み(体験型学習など)を行った結果、コロナ禍でもCO、GOの生徒の%が減少しているとの報告は特筆すべきことで大変興味深い内容でした。

コロナ禍において多くの学校が工夫を凝らし歯科健康教育に取り組んでおり、 今後ICT化した事後措置(各自のタブレットを使用した教材づくりや自分の口の 中の写真を用いて時系列の変化などを動機付けに活用など)が有用な方法とな ることを感じました。

本大会では練学歯学術委員会もポスター発表(〜新型コロナウィルス感染症(COVID-19)拡大における学校歯科健康診断についてのアンケート調査)を行いました。

西村先生を始め学術委員や役員の先生方大変お疲れ様でした。

令和4年度全国学校保健・安全研究大会に参加して(盛岡)

練馬区学校歯科医会会長 草柳 英二

令和4年度全国学校保健・安全研究大会は、令和4年11月10日(木)・11日(金)岩手県盛岡市の盛岡市民文化ホールで開催されました。

記念講演は、「災害などで傷ついた子供の回復支援と心の健康教育」講師は、 兵庫県立大学大学院特任教授富永良喜先生でありました。会場は、コロナ禍の 影響か7割がたの観客数で少しさびしい感がありました。

その後会場をメトロポリタン盛岡ホテルに移動し、第72回全国学校歯科医協議会が、「体育・スポーツと歯及び口腔の健康」(盛岡大学児童教育学科教授盛島寛先生)の演題で講演を拝聴しましたが、口腔領域内容ではマウスガードの関連に少し触れた内容でやや落胆しました。その後、日学歯執行部主催の懇親会が開催され全国学校歯科医会の先生方と意見交換を行い親睦を深めました。

11日は、歯・口の健康づくり生涯にわたる健康管理の基盤となる歯・口の健康づくりの進め方の研究協議会に参加しました。研究発表では、「学校歯科医と連携した効果的な歯科保健指導の実践を通して」「自己管理能力を育む学校保健の充実」「地域のつながりを通じた歯・口の健康教育」を拝聴しました。それぞれの歯科保健指導の成果が見られ大いに参考になりました。特に自己管理能力改善や生活様式の管理、学校保健指導の大切さが理解できました。

大会参加による新たな知識を得られるので、是非とも会員の先生方は、会場 に足を運んでください。 とても充実した大会参加でした。



日学歯 川本強会長 都学歯 鈴木博会長



会場入口にて中田郁平会員と草柳英二会員

令和4年度全国学校保健・安全研究大会に参加して(盛岡)

練馬区学校歯科医会専務理事 石井 伸行

令和4年度全国学校保健・安全研究大会の開催方法は今回、参集参加、ライブ 配信参加、オンデマンド参加と3通りでハイブリッドの参加方法がありました。

私はオンデマンドで参加いたしました。聞き逃したところを何度でも見直せる、聞き直せる。さらに手が空いた時にこちらの都合の良い時間に受講できるというメリットがあります。反面会場の雰囲気は伝わってこないのがただ一つの残念なことでした。

私は「第5課題 歯・口の健康づくり生涯にわたる健康管理の基盤となる歯・口の健康づくりの進め方」を視聴しました。この課題の中での研究発表は3件ありました。3件とも優れた観察力とまとめ方で興味をひかれました。共通して昼食後のブラッシングを推奨しているようでした。中でも特に参考にさせていただきたいのは岩手県立大東高等学校の研究発表です。この学校では80%以上の生徒に昼食後のブラッシングが定着しているそうです。近隣の保育施設等に学内の保健委員会の生徒が歯みがきボランティア等に出向くなど、積極的に地域と連携しながら学校あげて歯科保健活動に取り組んでいるとのことです。適切な食品を選択する能力の育成のため自動販売機の飲み物を選択する力、また家庭におけるバランスのとれた弁当作りの例示など工夫をこらした点等の説明とあわせて調理実習室前に展示していることは意義あることだと思いました。また学校歯科医による歯科保健講話も毎年新入生を対象に行い、歯科保健講話の後生徒からのアンケート、生徒からの質問、それに対する学校歯科医からの個別の回答など、これらは保健だよりで周知し、アフターフォローもしっかりされています。

ICT技術を活用し、生徒が出演する定期健康診断のシュミュレーション動画及び歯科健康診断時の記号を説明する動画撮影が行われている。歯科保健活動に興味を持ってもらうように工夫した点、さらに、今どきの若人はスマホのベテランなので歯科保健に関する情報などがあればスマホを必ず見るのではないだろうかという点に着目されていました。学校歯科医により作製された歯科健康診断専用アプリのおかげで、言葉だけで伝えるよりも効果的に歯科保健を理解させることができるようになったそうです。他の学校歯科医からもこのアプリへの問い合わせがあり、雰囲気としてはこのアプリの使用許可が得られるかも知れませんので一度問い合わせてみてはと思いました。

第41回練馬区学校保健大会に参加して

豊玉第二中学校担当歯科医 名古谷 昌宏

令和4年12月15日に練馬文化センターが改修中ということで本年度は練馬区立生涯学習センターホールで新型コロナウイルス感染対策のもと開催されました。草柳英二練馬区学校保健会副会長の開会の辞に続き、来賓の方々の祝辞、本年度の学校保健関係表彰受賞者の発表と続きました。

練学歯関係では、東京都教育委員会表彰は郷家英二先生(大泉西中学校)練馬 区民表彰は、石塚亨先生(石神井小学校)および中村雅史先生(開進第三中学校) の3名の先生方が受賞されました。

次に、小学校養護教諭部会の研究発表があり、大泉東地区研究会は「子供たちの健康を育む保健室づくり〜保健室の『救急処置機能』の充実を目指して〜」。大泉西地区研究会は「緊急時に備える〜保健室・子供・教職員・学校の視点から〜」の演題でした。共通している内容は、子供達が自分で出来る応急手当について知り、且つ実践することが出来るように指導し、保健室には緊急性の高い判断、対応が必要になる熱中症や食物アレルギーが発生した場合の対応手順、処置方法を掲示したコーナーを設置し、各々の症例に対する救急セットなども準備して有事の際には、コーナーを見れば、養護教諭は勿論、他の教員も素早く対応出来る様に保健室機能の充実を目指して研究を重ねているとのことです。

特別講演では、講師 RabbitDevelopmentalResearch 代表平岩幹雄氏により演題として「発達障害とは?どのように対応するか」についてのお話を伺いました。発達障害は根本的な治療は現在ではないが、適切な対応により社会生活上の困難は軽減されることがよくあるとのことです。以前は、言葉が遅れる自閉症は、知的障害と思われ、治らないと考えられていましたが、現代では個別療育で改善する場合が増えてきているようです。適切なプログラムで早期介入が重要とのことです。また、不登校児童生徒数は、平成 30 年頃より増加傾向に移りここ 1~2年は新型コロナウイルス感染症の影響なのか急速に増加しているようです。

最後に小田和枝練馬区学校保健会副会長の開会の閉会の辞により大会を終了 しました。

第35回練馬区よい歯・よい子の集い

東京都学校歯科医会主催

令和4年度「歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール」及び「歯の作文」入選者報告

東京都立練馬工業高等学校 金澤 正彦

本年度も東京都学校歯科医会主催「歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール」と「歯の作文」コンクールが行われました。

練馬区の児童生徒の入選者は、中学校ポスターの部で2位に中岡柚菜さん(大泉西中3年)特別支援学校・特別支援学級図画・ポスターの部で2位に匿名さん、小学校高学年図画・ポスターの部3位に深澤実緒莉さん(練馬小5年)高等学校ポスターの部3位に山本花音さん(石神井高2年)、佳作に村岡夏希さん(第四商業高3年)吉岡榎南さん(第四商業高2年)小学校低学年図画・ポスターの部で佳作に稲子友都さん(上石神井北小2年)また「歯の作文」では、中学校の部で良に牧琉千椛さん(練馬東中2年)山田果穂さん(練馬東中2年)佳には、木村悠聖さん(練馬東中)小学校の部で佳に、阿部心春さん(北原小6年)でした。

これらの作品は練馬区で毎年9月に行われる歯と口の健康週間行事の内の「歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール」でそれぞれの部門で特賞に選ばれた作品(高等学校ポスターの部と「歯の作文」は東京都学校歯科医会が直接審査)が東京都学校歯科医会主催のコンクールに推薦されさらにそこで審査された素晴らしい作品です。因みに本年度練馬区では小・中学児童生徒合わせて応募総数420点の内入賞者42名でした。どれも高度なテクニックを駆使した個性的でよく考えられた作品です。

練馬区の全入選作品は練馬区学校歯科医会のホームページ上にも掲載されております。 是非ともアクセスしてみてください。



入選作品

「練馬区学校歯科医会65年記録誌」発刊へ

練馬区学校歯科医会65年記録誌編集委員会 佐藤 和典 草柳 英二

昭和30年(1955)4月に、練馬区学校歯科医会が発足して以来、令和2年(2020)で創立65周年を迎え練馬区学校歯科医会65年記録詩の発行が現執行部で企画される事となりました。

過去に、昭和54年(1979)の「練馬区学校歯科医会三十年の歩み」、平成5年(1993)の「練学歯45年史」が発行されましたが、それ以降15年の年月が経過しましたが発刊にいたらず65年を契機に、令和元年より草柳英二会員、名古谷昌宏会員、金澤正彦会員が中心として七名からなる「練学歯65年記録誌編集委員会」が発足し、コロナ禍にもかかわらず約2年6か月間にわたり編集委員会が開催されました。先輩諸氏から提供していただいた貴重な資料と過去の保管されていた資料及びアルバム等にもとづき、何かどや印刷の協力のもと令和4年9月に待望の練馬区学校歯科医会65年記録誌を刊行する事ができました。

発行部数は500冊で、練馬区学校歯科医会会員及びOBの先生方、練馬区関連の全114校及び練馬区教育委員会、練馬区健康推進課、保健所、日本学校歯科医会役員及び広報委員会、東京都学校歯科医会役員及び広報委員会、ライオン(㈱、サンスター(㈱、(㈱) コサカ等関係者各位に約330部が送付され、前川燿男区長及び堀和男練馬区教育長には表敬訪問し、直接手渡しできる機会がえらえました。うれしい事に、数名の先輩諸氏から発刊についてお褒めのお手紙も拝受いたしました。



練馬区学校循科医会 9

歯と口の健康推進事業における小・中学校への歯ブラシ贈呈



総務理事 西 克昌

平成30年から「歯と口の健康推進事業」の一環として小・中学校に歯ブラシの贈呈がされています。今年で5年目になりますが、贈呈校は歯ブラシを希望する学校の中から練馬区教育委員会で毎年6から7校選んで頂いています。基準は給食後の歯みがきに理解のある学校から選ばれていますので、学校歯科医の先生方は給食後の歯みがきを勧め、尚且つ教育委員会から問い合わせがあれば歯ブラシを希望するよう学校に働きかけてください。

令和2年度 合計 1,060本

I	学校名	贈呈数	学校名	贈呈数	
	関町北小	600本	中 村 西 小	4 6 0 本	

令和3年度 合計 3,600本

学校名	贈呈数	学校名	贈呈数
下石神井小	880本	南田中小	3 9 5 本
光が丘夏の雲小	560本	北町西小	4 3 0 本
光が丘秋の香小	475本	光が丘第三中	4 5 0 本
大泉桜学園小	4 1 0 本		

令和4年度 合計 2,020本

学校名	贈呈数	学校名	贈呈数	
大泉北小	600本	南ヶ丘小	3 6 0 本	
大泉学園緑小	8 0 本 ※3 年生のみ	北町中	3 4 0 本	
橋 戸 小	290 本	上石神井中	3 5 0 本	



対象:小学校低学年



対象:小学校高学年



対象:中学生



学校紹介

練馬区立光が丘第一中学校 学校歯科医 吉積 宏祐



練馬区立光が丘第一中学校は昭和59年に開校しました。緑豊かな光が丘公園を中心に、高層住宅が立ち並ぶ練馬区の光が丘地区にあります。かつては、グランドハイツと言われた広大なアメリカ軍の住宅地でしたが、昭和50年代から光が丘団地の建設が進み、現在の整備された光が丘地区が作り上げられました。その一角に区立中学校として光が丘地区に最初に開校された学校です。学校教育目標として開校以来の教育方針(友愛、連帯、奉仕)を踏まえて、心身ともに健康で創造性豊かな知徳体の調和のとれた生徒の育成を目指し、次の三点を教育目標としています。

- 一 自主的に学び、考え、実行する人
- 一 心豊かで、ともに助け合う人
- 一 健康で、勤労を愛する人

現在

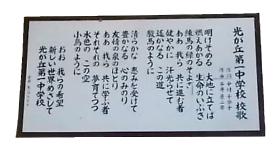
生徒数267人(令和4年4月)で山谷安雄校長、教職員の方々、PTAや地域の方々が一体となって生徒を見守って育てていることが伝わってきます。

学校に入ると掲示板の張り紙がお迎えをしてくれます。お邪魔するたびに張り紙が交換してあり楽しみに拝見させてもらっています。

新型コロナウイルス感染症が流行した為に歯科健診に時間をさいて頂いているので昼は給食を皆さんと一緒に食べています。

給食は何年ぶりでしょうか?

楽しい時間を共有されてもらつています。





学校紹介 練馬區

学校紹介

練馬区立光が丘第二中学校 学校歯科医 佐藤 和典



区立光が丘第二中学校は、昭和62年に旧米軍グランドハイツ跡に光が丘パークタウンの建築に伴い、区内33番目の中学校として「緑と太陽のまち光が丘」に誕生しました。

本校の教育目標は、

- ○よく考える
- 進んで働く
- 協力し助け合う
- 心身を鍛える

豊かな心と感性をもち、高い学力を維持しながら、国際社会に出ても活躍できる 生徒の育成に、第9代校長を中心に全教職員が全力を挙げて取り組んでいます。

今年で創立37周年を迎え、1年生3組、106名、2年生3組、113名、3年生3組、100名、合計319名が通学しています。

周辺からは学力が高いということで人気があり、学区外からくる生徒が大勢いて、毎回抽選になるみたいです。部活の数は少ないですがつよい部もあります。

光二中五箇条

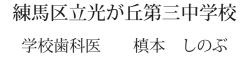
- ① あいさつをしっかりすること
- ② 暴言、暴力をしないこと
- ③ 忘れ物をしないこと
- ④ 5分前行動、3分前着席を心がけること
- ⑤ 何事もしっかり取り組むこと

がありこれらを活用して生徒指導を行っている。





学校紹介





練馬区立光が丘第三中学校は都営地下鉄大江戸線『光が丘駅』から徒歩7分、 光が丘東大通り沿いの好立地に昭和63年4月1日に開校しました。第1回入学 式の生徒数104人という小所帯でスタートしました。

開校記念日は同年5月1日、校章制定は11月1日、翌年2月15日には校歌が制定され3月20日には45名の卒業生を送り出しました。

令和3年4月1日には第10代校長の蓮池和彦先生が着任され、令和4年4月8日の生徒数は15クラス427名と大所帯となり地域のシンボル的存在として親しまれています。

教育目標は

- ①深く考え、自ら実行する
- ②思いやりの心で協力する。
- ③美しい心、たくましい体をつくる

という三本柱を掲げており、文武両道を目指して生徒たちは日々努力をしています。 私は歯科校医に着任して 12 年経ちますが、生徒たちはいつも明るく礼儀正しく挨 拶をしてくれて、とても気持ちの良い学校だと嬉しく思います。

光が丘第三中学校が開校した昭和63年は、21世紀に向けて人間性豊かで創造性があり、国際感覚を身につけた人々が平和な世界を築き上げていくことが強く求められている時期でした。校章は生徒・保護者・教職員の公募を経て、美術科の先生によって作られました。

校章のデザインは、光の拡がるイメージであり、「中」の両側の「三」は、三中の三と同時に未来に向けて大きく羽ばたく翼を表しています。下方の「V」は光の拡がりと翼をしっかり支え、協力し、連携するイメージを表しています。



最後に私のお気に入りの場所をご紹介いたします。 左の写真は2階のオープンスペースです。

一学年の生徒が全員余裕で集合できる広さがあります。 光が丘三中は校庭も広く、いつも行っても生徒たちが のびのびと学校生活を送っています。

私は校医としてだけではなく、地域の一住民としても 一人ひとりの生徒が健やかに育ち、良き社会人として 羽ばたくことを心より願っています。



学校歯科医に就任して

練馬区立大泉東小学校学校歯科医 西村 亮

令和四年に正木先生の後任として練馬区立大泉東小学 校の学校歯科医の拝命を受けました西村亮と申します。

これまでは保育園・幼稚園児の健診時に乳歯列期の比較的安定した口腔内を診る機会に留まり、永久歯列への過渡期の大勢の児童の口腔内を短時間でチェックするのは初めてに近い経験となります。



日々の小児の診療で近年の公衆衛生への保護者の関心の高さにより齲蝕の 罹患率が毎年減少傾向にあるのはひしひしと感じています。

しかし一方では柔らかい食事に起因する顎周囲の未発達による不正咬合は増えている観があります。

安定した永久歯列への誘導は知能や身体の健全な発達の一翼を担う筈です 転倒時の咄嗟のかいなによる顔面及び頭部の防御が不十分な為、一昔前と比べると顔面への外傷のパターンに変化があるとも耳にしました。

小学校在籍中の6年間で口腔内が目まぐるしく変化する800人弱の児童 を二日間に分け健診をするにあたり改めて知識の整理をし、当院に従事してい る矯正歯科専門医の意見も積極的に取り入れ35年の臨床経験から得られた 知識を総動員して任に就く次第です。

診療所とは違い、限られた時間、限られた設備内での健診ではありますので少し計り不安ではありますがそれが杞憂である事を願っています。

本会員の先生方、今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いします



学校歯科医に就任して

東京都立練馬高等学校学校歯科医 鶴岡 岳史

本年度より、学校歯科医会に入会させて頂きました、練馬さくら歯科の鶴岡です。

当院は練馬文化センターの脇にあります。私は幼少期から練馬で育ち、練馬区の幼稚園、区立の小・中学校に通学していたので、練馬愛は人一倍です!この度、NDCでご一緒の



樋口先生にお声かけ頂き、練馬区の学校歯科医会の活動に参加させて頂きました。

入会までご尽力頂きました先生方にこの場をお借りして感謝申し上げます。

4月13日、早速健診に行かせて頂きました。内科、耳鼻科、眼科と一斉検診で、午前8時半~スタートとなりました。全校生徒800名弱を一度に診ることとなり、当院の勤務医に同行してもらい、3名体制で行いました。はじめは時間内に終える事ができるか不安でしたが、記録の看護師スタッフの方や教員の先生方のお力添えを頂き、途中ミラーが足りないハプニングにも合いましたが、再滅菌を行って頂き、どうにか初めての健診を無事終える事ができました。

健診の感想ですが、大多数の生徒は特に問題なかったのですが、既に口腔内が危険に晒されている歯が多い生徒が数名いました。残根状態の歯、治療途中の歯、磨き残しが多い口腔内。親元から手が離れ、思春期を迎えるこの歳の学生への対応は普段の診療でも悩む事が多いので、再度歯の重要さを啓蒙する必要性を感じました。段々と子供のう蝕は少なくなってきておりますが、成人前の学生達に今後どのようなアプローチが必要かを考えさせられた健診となりました。今後、口腔保健指導や、啓蒙活動など、可能であれば行っていければと思っています。

今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

執行部・学術委員会・ホームページ委員会



【執行部】



後列左より樋口理事、西村理事、佐藤理事、浅見理事、西理事 前列左より渡辺監事、中田監事、金澤副会長、草柳会長、名古谷副会長、石井専務

【学術委員会】



(左より) 郷家副委員長、瓦井委員、西村学術担当理事 生田委員長、佐藤委員、石塚委員、宮本委員

【ホームページ委員会】



浅見委員長、大塩委員、山室副委員長

編集後記



コロナが発生してはや3年たちますが、コロナ感染症法上の位置付けを2類から5類にひきさげる とか、屋内でのマスクの着用は原則不要にするとか、行動制限もなくすとかいろいろ論議されていま すが、早く元通りの生活が送れることを願う毎日です。

「練学歯だより」NO28 をお届けすることが出来ました。今年も種々の全国大会が開催される予定です ので、練学歯会員の先生方もお忙しいとは存じますが積極的に参加いただき、「練学歯だより」に投 稿していただきたいと思います。

佐藤和典

「COVID19」・オミクロン株・BA.5これらの用語を、日常生活の一部で耳にする現状の新生活様式。 就学時健康診断でも就学児は、マスクを決して外しません。学校紹介の原稿だいぶ揃ってまいりました。 数多く揃えば楽しみの一冊にまとめられ、関係各位に配布できそうです。大会参加もオンライン参加によ り会員の先生方が拝聴しやすくなりました。大会会場に足を運ぶとさらに多くの知識を習得されると思 います。

令和5年度は、第87回全国学校歯科保健研究大会が大阪地区で、第73回全国学校歯科医協議 会が兵庫県で開催されます。どうか直接会場へ参加下さい。新型コロナウイルス感染症は、わが人生の 重大事項としての刻印でしょう。

草柳英二

練馬区学校歯科医会ホームページ http://www.nerigakushi.tokyo 発 行 日 令和5年3月12日

発 行 練馬区学校歯科医会

〒176-0012 東京都練馬区豊玉北6丁目5-13 TEL 3557-0045代 FAX 3557-3553

発 行 人 草柳英二 担当理事 佐藤和典

印刷所有限会社かどや印刷

〒177-0042 東京都練馬区下石神井5-1-37 TEL 3997-0370 FAX 3995-0594

SUNSTAR



口腔粘膜、気になる傷口のケアに

傷口をカバーして保護するお口の液体絆創膏

バトラー マウスベール お口の液体絆創膏

Mouth Veil Oral Liquid Bandage 液体包带 一般医療機器

[分類]一般医療機器 [一般的名称]液体包帯 [販売名]バトラー マウスベール お口の液体絆創膏 [届出番号]27B1X00134000003 [内容量]90mL ※本品は一般医療機器「液体包帯」であり、保険請求はできません。

使用方法、使用上の注意などについては添付文書をご参照ください。

商品についてのご質問・ご不明な点は下記へお問い合わせください。



〒569-1195 大阪府高槻市朝日町3番1号 TEL:072-682-4733 FAX:072-684-5669

SUNSTAR **BUTLER** バトラー <mark>品談課</mark> マウスベール お口の液体絆創膏 ※内容物のイメージ画像 ほのかなシトラスの香り

®登録商標。BUTLER は登録商標です。 2021年11月作成

歯科医院専売 DOLPHIM歯ブラシ ドルフィン歯ブラシ

コンパクトヘッドタイプ プラーク除去に優れたテーパード加工 DOLPHIN

オリジナル歯ブラシとして 名入れする事が可能です

規格:ソフト(S)・ミディアム(M) カラー:(S)パステルブルー・パステルイエロー パステルグリーン・パステルピンク

(M) ブルー・イエロー・グリーン・ピンク

包装: 100 本入(ASS)、25 本入(単色)

DOLPHI n歯ブラシ **DUO**

ドルフィン歯ブラシ デュオ

極細毛とラウンド毛の二段植毛 歯肉の奥まで優しくケア出来ます。



カラー:ブルー・イエロー・グリーン・ピンク

包装:12本入(ASS、単色)

DOLPHIN義歯ブラシ スタンド付

ご家庭で使いやすいスタンド付





規格:スタンド…3色(イエロー、レッド、ブルー)

材質…シリコンゴム 包装:6本入(ASS・単色)

DOLPHIN義歯ブラシ

医院内でのご使用に最適



包装:6本入

総合歯科医療商社

株式会社



東京都練馬区豊玉中2-18-14 TEL:03-3557-4111 FAX:03-3557-4116 https://www.kosaka.co.jp E-mail:dental@kosaka.co.jp